

2022年度業務実績報告書

提出日 2022年12月15日

1. 職名・氏名 教授・池田英二

2. 学位 学位 博士、専門分野 医学、授与機関 金沢大学、授与年月 2000年3月

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習	
①担当科目名（単位数）	主たる配当年次等 卒業研究(4)4年通年
②内容・ねらい（自由記述）	これまで学んできた社会福祉学の4年間のまとめとして、自ら選んだテーマに沿って自主的に研究を進め、より充実した卒業研究の作成を目指す。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）	受講希望者なしだった。
① 担当科目名（単位数）	主たる配当年次等 社会福祉基礎演習(2)2年通年
②内容・ねらい（自由記述）	社会的な諸問題を取り上げ、情報を収集し、整理し、発表資料を作成する。そしてそれを元に効果的な発表を行い、全員で問題解決に向けた討論を行う。演習科目であり、受講者が自ら主体的に運営する。なお、前期は国際機関などが発行している基礎的資料の輪読も実施する。発表者の時は、自ら調べたこととそれに基づく意見を、他の受講生にわかりやすく説明できるようになる。発表者でない時には、発表に対する疑問点や自らの意見を適切に表明できるようになる。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）	課題の出題や資料は LMS を用いて配布するなど工夫した。さらに、主にマスコミを通して世間に流布している言説が本当に正しいのか、客観的な資料をもとに議論することでマスコミを盲目的に信じる危険性について注意喚起した。
① 担当科目名（単位数）	主たる配当年次等 精神医学(4)2年前期
②内容・ねらい（自由記述）	精神医学の歴史から、基盤となる脳の解剖生理、症状や検査法、治療法を概説したのち、個別の精神疾患について、視聴覚教材を使用しながら全般的に講義する。また、症例を適宜提示し、受講生同士による症例検討を実施。 代表的な精神障害の成因、症状、治療について生物学的、心理学的、社会学的な観点から理解し、多面的なアプローチができるように広範な基礎知識を習得する。そして、それらの基礎的知識を総動員し、事例検討を通して全人的な患者理解と効果的な支援とは何かを考えられるようになることを目標とした。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）	講義資料は LMS に事前にアップし、予習の便宜を図った。また、視聴覚教材も利用することで、リアリティーを持って学習できるように配慮した。
①担当科目名（単位数）	主たる配当年次等 精神保健 I(2)2年後期

<p>②内容・ねらい（自由記述） 現代社会の精神保健上の諸問題を、ライフサイクル(ライフステージ)、社会的場面などの面から、特に身近な話題を取り上げ、その課題・対策について学ぶ。また、関連する法令についても取り上げる。疾病性(病気の問題)のみならず、事例性(実生活での問題)の観点から、適切な支援を考えることができるよう、各種法令との関連も説明できるようになることを狙いとしました。</p>
<p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） ライフステージ、社会的場面毎に見られる精神的な問題を、各種ドキュメンタリーや映画など視聴覚教材を活用し、より深い理解ができるようにした。</p>
<p>① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 現代福祉問題論(2) 1 年前期 オムニバス形式</p>
<p>② 内容・ねらい（自由記述） 科目全体の狙いは、社会福祉（学）を構成する数々の知見や議論の概要が把握できるようになることである。担当したのは環境と精神保健との関係についてである。精神医学への導入を兼ねている。</p>
<p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 講義後は LMS にて小テストを実施し、各自の復習に役立てるようにした。</p>
<p>①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 精神保健学特論(2) 院 1 前期</p>
<p>②内容・ねらい（自由記述） 精神症状や検査法、治療法を再確認したのち、ライフステージをもとに個人から社会まで広い視野で精神疾患について考える。精神疾患に関する知識を、ライフステージを軸にして生物学的 (Bio) - 心理的 (Psycho) - 社会的 (Social) の各側面から考えていく。特に、受講生自身の身近な問題を通じ、自ら疑問を調べ、解決できるようになることをねらいとする。</p>
<p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 受講者なしだった。</p>
<p>①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 精神健康学特論(2) 院 1 （分担）</p>
<p>②内容・ねらい（自由記述） こころの健康な状態と病気の状態を理解し、その予防と治療・リハビリテーションについて学ぶ。メンタルヘルスの課題を抱えた対象者に、ケアやサポートを行ったり、またそれらを研究していく場合に必要となる主要な概念について学ぶ。 精神の健康について理解を深め、看護・福祉領域で遭遇することが多い精神的健康に関する課題を、ケア提供者の立場から検討できるようになる。</p>
<p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） ZOOM と対面によるリアルタイム講義とし、遠方の受講者にも配慮した。また、受講生の発言を促し、受講生参加型となるよう配慮した。</p>
<p>(2)その他の教育活動</p>
<p>内容 埼玉大学非常勤講師 精神保健・精神医学特講</p>

4. 研究業績

(1)研究業績の公表	
① 著書	
	【0本】
② 学術論文 (査読あり)	
* 1. Predicting future internet addiction using stress-coping strategies at admission among undergraduate students: A risk-factor analysis. <u>Ikeda E</u> , Takahashi K, Muranaka Y, Ikeda H, Baba H. <i>Psychiatry and Clinical Neurosciences</i> , 76(4), 122-123. (IF 12.145) (2022年4月)	
論文詳細：インターネットアディクションはメンタルヘルスの悪化につながる重大な問題であり、その予防は重要な課題である。そこで、本研究では、大学生を対象にインターネットアディクションの発症リスクを高めるストレス対処戦略を前向きに明らかにすることを目的とした。入学時にインターネットアディクションおよびストレス対処法を調査した。インターネット依存度の評価には Young' s Diagnostic Questionnaire、ストレス対処法の調査には Brief COPE を用いた。入学時にアディクションではないと評価された学生に対して1年後に再びアディクションの調査をし、発症群 (121名) と非発症群 (1,648名) に分け、入学時のストレス対処法を比較した。その結果、大学生のインターネットアディクションの発症には、情緒的サポートの利用の高さが最も関係していた。このことは、大学のカウンセラーは、より共感的な対応に努めることで、特にハイリスクな学生に対する予防的介入がしやすくなることも示唆している。	
	【1本】
③ その他論文 (査読なし)	
	【0本】
④ 学会発表等	
* 1. 大学生の留年予測因子としてのインターネットアディクション。2022年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会、仙台 (2022年9月)。池田英二、高橋健太郎、村中泰子、池田東香、馬場久光。	
発表詳細：留年のリスクについて、インターネットアディクション(IA)との関連性を調査し発表。日本の大学生の留年率は20%前後であり、学業不振や対人関係困難等によるものが多いと思われる。また、若年者のIAは現実逃避的側面があると言われている。そこで、留年ハイリスク群を成績以外からも特定することを目的とし、大学3年生時点でのIAがその後の留年率を高めるかについて前向きに検討した。年齢、性別、学部の影響を調整しても、3年次当初にIAがあると留年リスクは約2倍となり、対策が必要な留年ハイリスク群をIAから特定できる可能性が示された。	
	【1件】
⑤ その他の公表実績	
	【0本】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績	

(3)特許等取得
(4)学会活動等

5. 地域・社会貢献活動

④富山県庁高ストレス者面談(2022年12月) 富山県教育委員会高ストレス者面談(2022年10月～2022年12月)

6. 大学運営への参画

(1)補職
学生相談・保健センター副センター長 (2019年4月～現在に至る) 健康管理室長 (2019年4月～現在に至る) 学校医 (2018年4月～現在に至る)
(2)委員会・チーム活動
新型コロナウイルス感染防止対策チーム (2020年2月～現在に至る) 新型コロナウイルス感染防止対策会議 (2020年2月～現在に至る) 衛生委員会 (2018年4月～現在に至る) 保健管理センター運営会議 (2018年4月～現在に至る)
(3)学内行事への参加
入試説明会 (7月6日、奥越明誠高校)
(4)その他、自発的活動など
新型コロナウイルスワクチン接種問診担当 (2022年3月、2022年12月)